

大会テーマ受賞作品

【最優秀賞】

受け継ごう 命あふれる 清い海

(小林 碧琶・志摩市立大王中学校2年)

作品説明	様々な生き物がある清く豊かな海を守っていこうというテーマです。
審査員講評	<p><u>豊かさを命あふれるとの表現で、海の恵みの大切さを力強く、かつ、わかりやすくイメージさせる大会テーマである。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・前大会を含め、これまでの各大会の思いを受け継ぎ、また、各地の海で、水産業の振興に尽力されている方々の思いを受け継ぎ、そして、本大会で生命力あふれる豊かな海づくりを行おうという、力強さのあるテーマであると思う。分かりやすく、覚えやすい言葉で構成されている。・豊かな海からの大切な命を預かっている人間が責任をもって、次世代に引き継いでいかなければならないという使命感が込められていることを評価。

【優秀賞】 3作品

育てよう 未来につなぐ ふる里の海

(中井 典子・志摩市)

作品説明	環境問題や藻場など人の手が加わることによって再生されると思うし、美しい三重の海を子や孫に受け継いでほしいので、育てる継ぐをテーマに考えました。
審査員講評	<p>水産資源の保護や豊かな海を次世代へ引き継ぐという大会の目的や基本理念を分かりやすく伝えており、すべての人々の共感をよぶ大会テーマである。</p> <ul style="list-style-type: none">・育てよう との呼びかけの表現が、大会テーマを見た人の心に、届きやすい表現になっている。幅広い年齢に対して、分かりやすく、覚えやすい言葉で構成されている。「育てよう」「未来につなぐ」という表現は、明るく希望にあふれている。・「未来につなぐ」、「育てる」ためには、今ある困難や課題を克服するために、みんなが協力することの大切さが必要だという現状があることが、言外に読み取れる。・「ふる里の海」について、心の「ふる里」は、どんな形であれ人それぞれ持っていると思う。海がある地域の人にはリアルな「ふる里の海」への思いが、海がない地域の人にとっても、自分が出会った「海」があると思う。また、海に「ふる里」を感じなくとも、日本にとって、海は命を育む存在・大切な存在＝「ふる里」であると考えている。そんな「ふる里の海」を「未来につながる」ように「育てよう」と、呼びかけるのは、本大会の『つくり育てる漁業の推進』『水産業の振興と発展』を図るという目的を、多くの人が共感し、自分の事として捉えることができる作品ではないかと思う。

あなたから つながれた海 永遠に

(川村 茅央・南伊勢町立南勢中学校3年)

作品説明	大分でのテーマが「バトン」だったので、「それをつないだ私たち」をテーマにしました。
審査員講評	<p>過去から未来へとつながる大会の基本理念をうったえて、だれもが印象に残る力強い表現となっている。</p> <ul style="list-style-type: none">・「あなた」の言葉は「みんな」等のあいまいな表現ではなく、大会の関係者全員に、自身が当事者であると思わせるような、強い呼びかけの効果を持つ言葉である。「つながれた」の語句は、第4回三重県大会のテーマの「子に孫につなぐ」という言葉と、今年度開催の第44回大分県大会のテーマ「つなぐバトン」という言葉を受け、日本の海の過去と未来を同時にイメージさせる言葉である。

もう一度 かがやく海に 大漁旗

(篠木 彊・津市)

作品説明	今、漁業の現状は危機的状態です、あと5年持たないでしょう、大会設立時とはまったく違った状況です。少し本音で問題提議の意味をこめて、原点を考へ表現しました。
審査員講評	<p>厳しい漁業の現状を踏まえて原点に立ち返り、自らの努力ですばらしい未来を切り開いていこうという決意を感じさせる。</p> <ul style="list-style-type: none">・「大漁旗」という言葉に強い期待が感じられる。(今までの)大会テーマにありそうでなかったところも新鮮である。

【佳作】 5 作品

次世代へ 守り続ける 豊かな海

(柴原 樹・志摩市立浜島小学校5年)

作品説明	次世代へこの豊かな海をずっと守りつづけていきたいという思いをこめました。
審査員講評	<u>豊かな海づくり大会の連続性を感じさせる。</u> ・昨年度の大会テーマが「つなぐバトン 豊かな海を 次世代へ」となっており、それを引き継ぐ形で「次世代へ」から始まっていること、「次世代」というワードが前回を除くと他の大会では使われていないこと、地元の若い世代（小学生）の素直な思いが表現されていることなどから選定した

ふるさとの 命かがやく 海づくり

(沖田 真理・伊賀市)

作品説明	母なる海がふるさとの生物たちが互いに作用しつつ命を輝かせながら海づくりをしている様子を表現しました。海にいる命の大切さを強調するために、この2文字は漢字にしました。
審査員講評	<u>地域の活気と躍動感にあふれている。</u> ・「命かがやく」に、海の美しさと共に、人々の生命力・水産業で働く人々の振興を感じる。そういう海づくりをしていこうという方向性が伝わってくる。分かりやすく、覚えやすい言葉で構成されている。

いつまでも 続く恵みの 海であれ

(坂元 悠孝・度会町立度会中学校3年)

作品説明	三重県の豊かな海がいつまでも美しく、私たちに恵を与える存在であって欲しいという意味です。
審査員講評	<u>海の恵みが現在から未来へと続いてほしいとの思いや願いが力強く伝わる。</u> ・「恵みの海であれ」という表現に厳しい環境を耐えてつなげたいという願いが感じられる。

守ろうよ 綺麗な海と 子の笑顔

(野島 清孝・伊勢市)

作品説明	子供達が悲しい顔になる様な海には絶対にしてはいけないという事。
審査員講評	<u>大切なものを具体的に表現することで、海を守る大切さを伝えている。</u> ・「綺麗な海」と「子の笑顔」という、素直に守りたい大切なことが表現されていることから選定した。

続く未来 恵みの海を 育もう

(中川 仁・志摩市立神明小学校5年)

作品説明	たくさんの資源や恵みを与えてくれる日本の海のこれからの未来を守り育て次世代へ続けていくよう願ってこのテーマを考えました。
審査員講評	<u>豊かな海をつくり、次の世代へつなげていくという大会の基本理念の普遍性を感じさせる。</u> ・未来に向けて、恵み豊かな海を守っていこうというメッセージ性を評価。